

まちびと輝きたる人



作家 須藤 靖貴

1964年東京都生まれ、朝霞市在住。スポーツ誌の編集者などを経て、『俺はどしゃぶり』(光文社文庫)で小説新潮長篇新人賞を受賞し、作家デビュー。執筆の合間には、朝霞の森まで散歩したり、近所のスーパーを巡ったりして過ごしている。家族のために、得意の料理を振る舞うことも。

朝霞のまちの輝きの一翼を担う人をご紹介します不定期連載の第二回は、作家の須藤靖貴さんです。大学卒業後、スポーツ誌編集者を経て作家デビューされた須藤さん以来、朝霞市内のご自宅で数々の作品を執筆されています。須藤さんがよく足を運ぶ、朝霞駅ビル内の、チエノワブックストアでお話を伺いました。

「もともと作家を志していたのですか？」

はい、作家を目指していたので、大学の文学部卒業後はスポーツ誌の編集者となり、執筆の腕を磨いていました。学生時代に打ち込んだアメフトの専門誌や、若貴ブームの渦中に相撲の専門誌を担当したこともあります。作家に転身した後は、スポーツが好きなので、アメフトや相撲はもとより、野球、マラソン、運動会などを題材にした作品を書いています。

「朝霞での暮らしはいかがですか？」

朝霞に住んで、約23年になりました。以前の職場への通勤が便利なことでのまちを選んだのですが、公園が多く、図書館、体育館などの公共施設がまとまっているなど、暮らしやすい環境に満足しています。欲を言えば、副都心線が延伸して朝霞駅が始発になるとうれいんですね。(笑)



朝霞に暮らすうちに、まちのコンパクトさがお気に入りになった

朝霞市内の小学校を取材した、『走れ! ヒットン』運動会小説



「朝霞にゆかりのある作品はありますか？」

実は、ほとんどの作品に朝霞が関わっているんですよ。

近隣も含めて言えば、『どまんなか』(講談社)の主人公の高校生は、高校のある東松山まで、朝霞から通学しています。また、『満点レシビ』(新潮社)は、新座総合技術高校の食物調理科が舞台となっています。

ちよっぴりエピソード

ある
きさやかな
かんどう



朝霞に暮らす人は、温かい。あるとき、お財布や携帯の入ったカバンを失くしてしまいましたが、そのままの状態でご返りに届けていただきました。感謝しました。

「まちびと」募集中

まちの輝きの一翼を担ってくださっている人をぜひご紹介ください!取材を行い、広報や市ホームページ、その他SNSでご紹介させていただきます。情報をお待ちしております!!



問/シティ・プロモーション課 ☎423-3241

まちびと輝きたる人 vol.2

朝霞で言うと、なんとといっても『運動会小説 走れ! ヒットン』(講談社)です。本邦初の運動会小説で、朝霞第二小学校、第六小学校を取材させていただいた思い出深い作品です。また、青春相撲小説『おれ、力士になる』(講談社文庫)は、モデルがほぼ大栗翔関(我が家の長女が朝霞第一中学校のときに席が隣だった!)です。朝霞の皆さんに、ぜひ読んでいただければうれしく思います。

「須藤さんの作品からは、随所にこのまちへの想いが感じられます。取材にも、大変気さくに応じてくださいました。ありがとうございました!」

★次回は、『走れ! ヒットン』の主人公ひとみが進学する朝霞第一中学校のモデルとなった、朝霞第一中学校を取材します!